鉄鋼概況

四月輸出 過去最高を更新

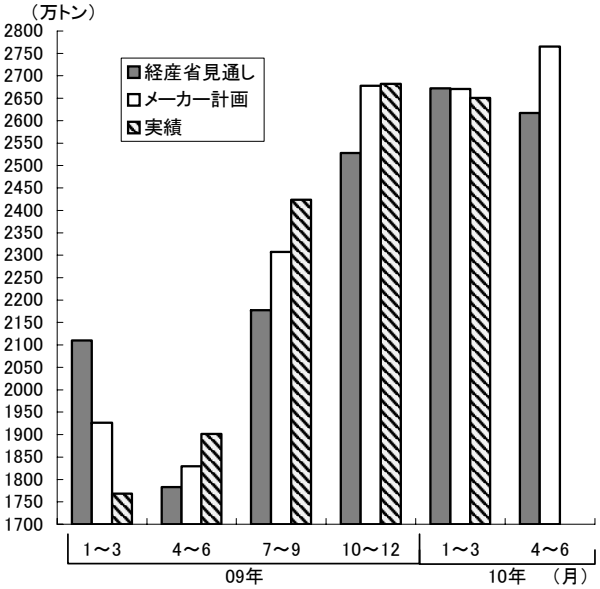
鉄鋼エコノミスト　左近司 忠政

三月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比二・〇％減で六カ月ぶりに減少した。四月の粗鋼生産は輸出向けの好調に支えられて前年同月比五六・七％増と六カ月連続して前年同月実績を上回った。四月の輸出（全鉄鋼）は四月としては過去最高を更新した。鉄鋼メーカー策定の四～六月期生産計画（粗鋼生産ベース）は前期比四・三％増で、経済産業省による同期の粗鋼需要見通しを上回った。高炉の主原料である鉄鉱石、原料炭の価格は大幅に上昇している。普通鋼電炉一七社、特殊鋼専業六社の前三月期決算も発表され、普通鋼電炉メーカー一七社の決算は経常ベースで一一社が減益、五社が赤字となった。四月の世界（六六カ国）粗鋼生産量は、前年同月比三五・七％増の一億二一六五万トンとなり、六カ月連続で前年水準を上回った。

❖❖❖

り、二〇〇八年七～九月期以来九期ぶりに二七〇〇万トンを上回る計画となっている。計画によると、普通鋼鋼材の生産量は前期比一・三％増の一九三〇万トンで、このうち国内向けは、季節要因による製造業向けの減少などを受けて一一五九万トンと前期実績を若干下回るものとなっている。ただ、夏季減産を控えた普通鋼電炉メーカーの計画が高めになっていることもあって、減少は小幅にとどまる公算が大きい。

図－１　粗鋼生産の四半期別推移



一方、輸出向けは好調を持続し、同四・一％増の七七一万トンと四～六月期としては三四年ぶりの高水準を達する見通しとなっている。このように国内の伸び悩みに対して輸出が好調を維持することで輸出比率は一段と高まり、特殊鋼を含めた四～六月期の輸出比率は三九％と四割に迫る勢いとなっている。ただ、原料価格の上昇に伴い、鋼材価格にも先高観が強まっている。経産省は「国内外で仮需が発生している可能性が強く、実需を見極めた慎重な対応が必要」としている。

◆高炉の二〇一〇年度主原料コスト大幅上昇

高炉の主原料である鉄鉱石、原料炭の価格は大幅に上昇している。鉄鉱石の四～六月積み価格はトン当たり一三〇ドルで暫定的に資源大手との間で合意がみられているが、七～九月積みの価格は指標価格の三月以降の上昇を受けて、一五八ドル（豪州産粉鉱、本船渡し）と三割強上昇する見通しとなっている。一方、原料炭は仮合意した四～六月価格（トン二〇〇ドル）に対し、足元のスポット価格は二三〇ドル前後となっている。中国が一月以降、月間三〇〇～五〇〇トンの輸入を続けているほか、春先の悪天候から豪州からの供給が細っているためスポット価格は高値寄りに推移している。原料炭の七月積み以降の価格交渉はこれからだが、豪ＢＭＡなど有力サプライヤーがスポット価格上昇などを理由に値上げを提示してくるのは必至と思われる。

一〇月以降のスポット価格の動向は現時点では不透明だが、中国の鉄鋼生産増などを背景に鉄鉱石、原料炭ともに需給逼迫が続く可能性が高い。七～九月積みの水準が年度末まで続くと、主原料だけで最大二兆円のコストアップになる可能性がある。原料価格の上昇を鋼材価格への転嫁が遅れた場合、二〇一〇年度の高炉メーカーの収益は大幅に圧迫される懸念がある。

◆電炉各社、前三月期業績

先月に高炉四社の二〇一〇年三月期の業績を紹介したが、普通鋼電炉一七社、特殊鋼専業六社の前三月期決算も発表された。トピー工業、合同製鉄、東京製鉄、ＪＦＥ条鋼など普通鋼電炉メーカー一七社の決算は、経常ベースで豊平製鋼が増益を果たした以外、一一社が減益、ＪＦＥ条鋼や東京製鉄など五社が赤字となった。原料の鉄スクラップ価格は前期比トン一万六〇〇〇円～二万二〇〇〇円と約四割低下したが、それ以上に鋼材販売数量と販売単価が低下した。数量は建設需要の低迷、とくにマンションやオフィスビルなど建築向けの不振が響いた。販売数量は東鉄が一〇〇万トン減少したほか、合同製鉄は四〇万トン、共英製鋼が二九万トンと軒並みダウンした。加えて販売単価は大きく下落し、下げ幅は東鉄がトン六万一四〇〇円だった以外、ＪＦＥ条鋼二万八二〇〇円、朝日工業が二万五〇〇〇円となっている。二〇一一年三月期は多くが増収を予想しているが、スクラップ価格が四〇～五〇％上昇するとみており、損益面については増益、減益予想が半々となっている。

特殊鋼専業六社については、純利益は日立金属と愛知製鋼が黒字化したが、三菱製鋼が赤字に、大同特殊鋼、山陽特殊鋼、日本高周波は赤字が拡大した。日立と愛知は販売量の減少幅を抑え、コスト削減を進めて営業黒字を確保した。他の四社は販売量の減と販売価格の低下が大きく、営業赤字となった。今期は原料高が減益圧力となるが、販売量と販価の改善を見込み、全社が増収、当期純利益は日立が増益、愛知が減益、他四社は黒字化を図るとしている。

◆四月世界粗鋼生産、六カ月連続増

世界鉄鋼協会がまとめた四月の世界（六六カ国）粗鋼生産量は、前年同月比三五・七％増の一億二一六五万トンとなり、六カ月連続で前年水準を上回った。中国が同二七・〇％増の五、五四〇万トンと大幅に増加し、日本（同五六・七％増）、ＥＵ二七（同六四・一％増）、米国（同七九・四％増）も大きく回復した。また、ブラジル（同五六・六％増）、ロシア（同二八・九％増）など新興国も生産好調が続いた。一～四月の累計生産量は四億六七八〇万トンで、前年同期に比べ三一・八％となった。同期における中国の生産量は二億一三八〇万トン（約二五％増）で、全体の四五％を占めた。□